



矢野邦夫

浜松市感染症対策調整監 兼  
浜松医療センター 感染症管理特別顧問

「ねころんで読めるCDCガイドライン（メディカ出版）」  
シリーズなど、CDC関連の編・訳書多数。

## COVID-19パンデミックにおける小児頭蓋内細菌感染症の増加

COVID-19パンデミックにおいて小児頭蓋内細菌感染症が増加しているのではないかと報告があり、CDCが調査した。その結果が公開されているので紹介する [<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/71/wr/pdfs/mm7131a4-H.pdf>]。

### 頭蓋内細菌感染症の増加

米国におけるCOVID-19パンデミックの最初の2年間（2020年3月1日～2022年3月1日）に、小児科センターが頭蓋内細菌感染症の発生率が増加したことを逸話的に報告していた。その多くはCOVID-19の感染中または感染直後に診断された。頭蓋内細菌感染症は、一部治療または未治療の思春期の細菌性鼻副鼻腔炎およびあらゆる年齢の小児の乳様突起炎のまれな合併症として発生するが、ミシガン州の小児病院では、小児での症例数がパンデミック前と比べ236%増加した。これらの症例のほとんどは12歳未満の幼児と小児であり、さまざまな種類の病原体が関連していた。これには連鎖球菌属が含まれており、集中治療室への長期入院と複数回の外科的介入を必要とする重篤な疾患を伴っていた。そして、症例の多くは、最近または同時にCOVID-19に感染していた。

### 調査

COVID-19パンデミックの最初の2年間に同様の傾向が全国的に発生したかどうかを確認するために、米国感染症学会の緊急感染ネットワーク（主に北米を拠点とした約2,800人の感染症専門家が参加している）を通じて調査が実施された。最初の調査では2022年2月に緊急感染ネットワークの参加者にメールが送信され、COVID-19の感染時期に関係なく、COVID-19パンデミックの最初の2年間に18歳以下の患者での頭蓋内細菌感染症の増加または連鎖球菌属の侵襲性感染症の増加がみられたかどうか質問した。最初の調査では109人の回答者が含まれ、そのうち47人（43%）が頭蓋内細菌感染症の増加がみられたと報告した。さらなる参加に関心を示した64人の回答者を対象に追跡調査が実施され、そのうち8人は電子医療記録を照会して、パンデミック前（2018年1月1日～2020年1月1日）および初期のパンデミック（2020年3月1日～2022年3

月1日）での症例の割合を調査した。データは米国国勢調査局の4つの地域（北東部、中西部、南部、西部）を代表する8つの機関から提供された。

### 結果

初期のCOVID-19パンデミックの期間、頭蓋内膿瘍（孤立性であり、頭蓋内膿瘍を合併した副鼻腔炎および乳様突起炎は含まれていない）は参加施設で平均100.9%（標準偏差 [SD]=133%）増加し、頭蓋内膿瘍を合併した副鼻腔炎は平均76.7%（SD=97%）増加した。一方、眼窩蜂窩織炎、副鼻腔炎、乳様突起炎は、それぞれ平均で14.5%（SD=31%）、31.9%（SD=17%）、24.7%（SD=31%）減少した。頭蓋内膿瘍を合併した乳様突起炎は116.7%（SD=96%）減少した。

### 考察

本調査では、2020年3月から2022年3月の期間（COVID-19パンデミックの最初の2年間と一致する）に、米国在住の18歳以下の人の頭蓋内細菌感染症のいくつかの形態が増加する可能性があることが示唆された。頭蓋内細菌感染症の増加の要因は、現時点では完全には理解されていないので、影響を受けた患者、疾患の経過、COVID-19感染との時間的関連性（および診断時に流行していた変異株）、症例の微生物学データ、この観察に関連する罹患率と死亡率のさらなる特徴付けが必要である。頭蓋内細菌感染症には、迅速かつ集中的な医学的管理が必要である。したがって、病因、COVID-19感染との関係、そのほかの危険因子を明らかにすることは、一般の人々の意識を高め、医療従事者が患者を診断して適切に管理するのに役立つ。



### 今月の矢野編集長

新病院の工事が順調に進んでいる。現在、7階建てのうち5階までの形がみえてきた。完成が待ち遠しい。それまでにはCOVID-19パンデミックは落ち着いてほしい。